ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	No.2(0369A120)	調査位置				北　緯	37 ° 04 ’ 17.0000 ”
発 注 機 関	栃木県大田原土木事務所			調査期間	2008-08-29 ～ 2008-09-02	東　経	139 ° 54 ’ 52.0000 ”
調 査 業 者 名		主任技師		現　場 代 理 人		コ　ア 鑑 定 者		ボーリング責任者	
孔 口 標 高	667.77 m	角度	180° 上 下 90° 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平 0° 90° 45.00 °	使用機種	試 錐 機		ハンマー落下用具	
総 掘 進 長	5.01 m								エンジン		ポ ン プ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	667.37	0.40	0.40		砂混じりシルト (M-S)	暗褐			粘性,含水低位 少量小礫混じる		
1	666.47	0.90	1.30		礫混じりシルト (M-G)	暗褐		中位	φ2～100mm程度の亜角礫,角礫混じる 少量の砂混じりである 1.0m以深,礫の混入が多く砂礫状となる		
2					溶結凝灰岩 (Wtf)	茶灰			亀裂間隔10～50cm程度で,コアは棒状コア主体である 亀裂面沿いの汚染は若干認められるが密着している 亀裂∠30 ° ～60 ° 程度のものが多い 3.9m付近の亀裂沿い粘土鉱物を挟む 下部,角礫を取り込んでいる 岩の硬さは堅硬で上面より比較的新鮮である 岩級区分はCM～CHクラスに相当する		
3											
4											
5	662.76	3.71	5.01								09/01

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	3	47／7		50／17	>50
1.32	50／2			50／2	>50
2.00					
2.02					
3.00	50／1			50／1	>50
3.01					
4.00	50／1			50／1	>50
4.01					
5.00	50／1			50／1	>50
5.01					

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日